

論述ブースト No.12

精神医療・メンタルヘルスを論じる

—— 偏見・当事者の権利・社会復帰を3軸で

目標：精神医療・メンタルヘルスというテーマを「スティグマ（偏見）の除去・当事者の権利保障・社会復帰の支援」の3軸で論じる力を養う。「精神疾患は心の弱さ」という偏見から「脳の疾患」という医学的理解へのパラダイムシフトを論証できるようにする。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「うつ病は心の弱さですか？」→「弱さではない」と答えても、その理由を論証できない生徒が多い。脳科学的根拠・スティグマの社会的影響・当事者の権利という3層で論じることが重要。

核心：精神医療の3軸：①スティグマ（偏見）の問題 ②当事者の権利（強制入院・インフォームドコンセント） ③社会復帰と地域包括ケア

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 精神医療・メンタルヘルス・当事者の権利で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

精神医療・メンタルヘルス・当事者の権利では、**偏見・権利・社会復帰の3軸根拠**が答案の質を大きく左右します。

② 精神医療・メンタルヘルス・当事者の権利で採点者が見ているポイント

「スティグマ・当事者の権利・社会復帰支援の3軸で論じた答案」が採点者に「多角的に考えている」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所